

空港反対同盟

(10月大行動・第2日目)

千葉市抗議 旗幟

日刊 動労千葉

80.10.16

No. 558

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八〇九(公衆)四五七二七二〇七

81年二期着工阻止 3月燃料延長阻止

10月19日総決起



今秋三里塚・軍事大国化阻止闘争の天王山。一九〇二一総決起闘争は、目前に迫った。すでに「十月大行動一週間連続闘争」をもって決起した反対同盟を先頭に、三里塚を闘う多くの団体の代表を結集し、日々大きな盛り上りを切りひらいている。第二日目の十月十四日、二五〇名の代表はムシロ旗・ノボリ・動労旗を押し立てて、千葉県庁・市庁抗議をもちととり、市内デモで全県民総決起を訴えた。反動鈴木内閣のやみくもな軍事大国化攻撃、その中心軸たる八一年二期工事強行攻撃に断固として対決し、全支部・全組合員は今こそ心を一つにして総決起しよう。今秋闘争の勝利の上に、来年三月の燃料延長阻止とを目的に、国鉄当局が、既に「東京三局九月裏切り妥結」に走った動労革マル反動分子の率先協力をテコにわが動労千葉に強制せんとしている「乗務員運用合理化十一月強行実施」攻撃を粉碎し、組織破壊を許さず、団結固く勝利の陣型をうち固めていかねばならぬ。



県庁抗議

機動隊の暴力はねのけ、抗議を貫徹

一時すぎ県庁前羽衣公園に結集した空港反対同盟と共闘団体の代表約二五〇名は北原・島両氏の司会で意志統一ののち、県庁抗議にむかった。動労千葉からは関川委員長・林執行委員はじめ、千葉運転区からの代表動員十五名をもって参加した。現在、空港公団と一体となつて、反対同盟分断し解体攻撃の最尖兵を買って出ている県当局は、この気迫にドギモをぬかれ、「代表は十五名しか入庁を認めない」「全員庁外へ退却せよ」と強圧的対応に終始、はては、二五〇名の機動隊を導入しての暴力的排除を行つてきたが、全員スクラムを固め、シユプレヒコールを県庁・全官庁街にとどろきわたらせ約二時間の果敢な抗議行動を貫徹しぬいた。一方、庁内では、北原事務局長・鈴木幸司さん・三浦五郎さん・小川むつさん・それに関川委員長・林執行委員を先頭に代表団が激しく県当局(吉田企画部長ほか)を追求し、①成田用水・農振策を使った同盟破壊攻撃、二期攻撃を中止せよ、②騒音・排気ガスによる農業・生活破壊を直ちにやめよ③ジェット燃料輸送延長をきつぱりと拒否せよ等を中心に追求し、断固たる廃港への決着をこめた抗議文をつきつけ抗議交渉をうち切った。

千葉市内デモ

ムシロ旗・動労旗先頭のデモに沿道から声援

昼食をはさんで再び県庁前で集会ののち、一四時四〇分、次の抗議先である千葉市庁にむけ、約

四キロの目ぬき通りのデモに出発。反対同盟宣言カーから婦人行動隊が「二期中止・一〇月総決起・ジェット阻止・動労千葉支援」を訴えムシロ旗・動労旗を先頭とした長蛇のデモに沿道から声援隊と迫手が送られた。

市庁抗議

「燃料延長拒否せよ!」「パイプライン工事中止せよ!」

雨をついて市庁に到着したデモ隊は、玄関前の機動隊の規制にめぐす抗議集会をもちととり、一方の反対同盟北原事務局長、動労千葉関川委員長、パイプライン反対の近藤氏らを中心とする抗議団が本庄企画調整局長ら当局を追求し、「今月二十七日までの文書による回答」を約束させたのち、シユプレヒコールを叩きつけ、更に千葉駅前までのデモを貫徹し十六時解散した。

当局・動労革マル反動分子の一体化した攻撃ぶち破り、十月総力決起へ!

解散集会で決意表明に立った千葉運転区支部永田支部長は、動労革マル反動分子の乗務員運用合理化九月裏切り妥結を厳しく断罪し、当局の最も悪質な尖兵として動労千葉破壊Ⅱ三里塚ジェット闘争破壊に血道を上げている彼らを全人民で粉砕しぬくことが来年三月への勝利のカギであることを鮮明に訴え、十月総決起から来年三月への決意を明らかにし、全体の拍手とガンバローの中で、この日の闘いを成功裡に終了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織攻撃を粉碎せよ!